

萩城 萩市堀内 1-1

2022年9月の旅コト塾で紹介された大正の偉大な実業家で、鉱山王・日立の創業者でもある久原房之助が萩城下で生まれたということで萩城と近くの街並みを紹介します。

萩城は慶長9年（1604）に毛利輝元が指月山麓に築城したことから、別名指月城とも呼ばれ、山麓の平城と山頂の山城とを合わせた平山城で、本丸、二の丸、三の丸、詰丸からなっていました。現在は石垣と堀の一部が昔の姿をとどめ、ここ一帯は国の史跡に指定されています。園内には天守跡、梨羽家茶室、旧福原家書院、万歳橋、東園などの旧跡があります。また、幕末13代藩主毛利敬親が安政年間に藩主別邸・花江御殿に増築し、家臣とともに茶事に託して時勢を論じた茶室「花江茶亭」が明治22年に園内に移築されています。



毛利輝元の銅像



萩城石柱とお濠と石垣



当時の石垣(犬走)



天守から濠を見る



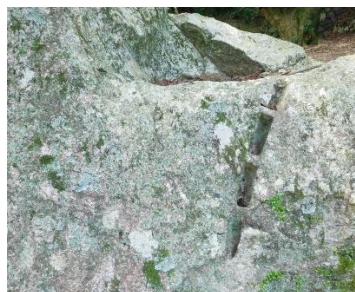
天守跡



内堀



指月山に石切り場がある





海に面した石垣跡



城下の案内板だが久原房之助の生家は見当たらなかった

木戸孝允生誕地



毛利藩を支えた豪商菊屋の玄関



田中義一の生誕でほぼ久原房之助と同世代